

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		Aikane		公表日		令和8年 1月31日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		法廷で定められているスペースを確保している。個人活動や制作等の活動しやすい開けた室内になっている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		定員に対してプラスで配置を行っている。	配置数は適切だが、今後のさらなるサービス向上のためにも人員の追加は必要あり。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		広々としていて周囲を見渡せて段差なども必要最低限になっている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		空間を保てるよう可動式のテーブル等を用いてスペースを広く使えるようにしている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個室が必要となった場合はパーティションで区切りをして落ち着ける空間を確保している。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		日々の業務から年度取り組んでいく目標設定をして職員と共有し取り組んでいる。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		年に1回の保護者アンケートの集計や保護者会を設け意見を吸い上げ、業務に活かしている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎朝の朝礼や何かあればその都度対応しすぐにも改善できるようにしている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		第三者による外部評価は設けられていない	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		年2回内部研修が行われる。法人内でも一人一人にどんな研修がしたいか聞き取りがあり開催予定である。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		作成、公表共にしている。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		5領域に基づいた観点でアセスメントを行い、本人や保護者様のニーズに配慮しつつ計画を作成している。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		職員全員の考えや意見をくみ取り、計画に取り入れている。作成後は職員も目を通している。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		全員で共有している。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		日々の連絡を共有し、本人に合った支援を心掛けております。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		個別支援計画の5領域に加え、必要に応じて関係機関との情報共有を行い個々に適した支援内容を設定し日々改善、工夫をして支援を行っている。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		年間計画を作成しスタッフ全員で立案している。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		新しいことにチャレンジできないかスタッフ間でアイデアを出し合っている。また季節感にも考慮したものになるよう工夫している。		

保	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		個々に合わせた個人活動を計画を状況に応じて支援している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		朝礼時に一日の流れと前日の振り返りについて確認しノートにまとめている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		送迎後に職員間で情報共有を行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		ケース記録としてその日の様子や支援の振り返り等を書きこみ、振り返りを行えるようにしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		半年に一度モニタリングとアセスメントをとり見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		複数組み合わせ支援を行っている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		基本、本人から言葉を引き出せるよう支援を行っている。目線や表情でもくみ取り自己決定を促している。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参加しているか。	○		支援に多く入っている職員が参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		年に2回協力医療機関の医師が往診に来てくれている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		下校時に申し送りを行っている。傷や怪我があり申し送りがなかった場合は問い合わせをすることもある。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○			そこまで情報共有をする場がなかったが、必要に応じ相互理解に努めたい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		必要に応じて対応している。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			今は助言をいただく機会がないが機会があれば設けていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		一緒に何かをするといったことはないが、商店街のお祭りやイベントを通して関わる機会がある。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		年に3回行われるこども部会に参加し、地域の課題等、共有する機会としている。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		コノベル(連絡帳)や自宅への送迎時に時間を設け行っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			今後、要望があれば随時お知らせしていきたい。
保	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時やモニタリング時に説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		モニタリングでの聞き取りや日々の活動の様子などをふまえて保護者や本人の希望に沿えるようにしている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		対面で計画を読みながら保護者と一緒に確認をし同意を得て署名・捺印をいただいている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		必要に応じて対応している。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○		年に一回、保護者会の場を設けている。	きょうだい同士での交流する機会は設けられていない。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		相談窓口や受付を設け、迅速に対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		保護者会時に年間行事予定を発信したり、連絡アプリ(メッセージや掲示板)を利用したりしてお知らせ等を発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		鍵付きの棚で保管。情報の取り扱いには注意している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		情報伝達手段として室内に絵カードを用意し特性に応じた配慮・支援を行っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		招待することはないが参加させてもらっている。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各マニュアルを策定し事業所に掲示している。連絡アプリ(コノベル)にてご家庭に発信している。	
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		事業所以外にも防災センターへ行って訓練体験を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		緊急連絡シートに詳細を記入してもらっている。薬の種類や量が変わった際にはその都度教えてもらっている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		保護者からの聞き取りや緊急連絡シートにて把握を行っている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画に基づいて研修、確認等を行っている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		連絡アプリ(コノベル)を使って保護者へ周知を行っている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットがあった場合は共有し、報告書を作成してファイリングしている。また、委員会等で定期的に報告、方策の機会を設けている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止委員会・身体拘束適正化委員会にて第三者委員にも議題として話、意見をもらいながら適切な対応ができるようにしている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		保護者に説明をし了解を得て個別支援計画に記載している。		